

## 東西文明の比較 (3)

陽光新聞社・顧問  
塩澤宏宣

前回、世界の文明がいくつかあったか、について書きました。次に復習してみます。

「多くの学者による試算はいろいろあるが、主要な文明は12存在し、そのうち7つ（メソポタミア、エジプト、クレタ、古代ギリシャ、ローマ、ビザンティン、中央アメリカ・アンデス）はもはや存在していない、5つ（中国、日本、ヒンドゥ、イスラム、西欧）が存在する」。日本文明は、日本固有の文明として認識され、中国文明から派生し西暦100ないし400年の時期にあらわれたとする・・・」

太平洋の片隅にある小さな島国・日本の文明が数千年を経て、「世界の文明」の一つとして世界の学者たちが認めていることに誇りを感じるのは私だけでしょうか。

そこで今回は、日本文明について書いて見ます。「世界の中の日本文明」は、中国文明の影響を受けて西暦100年から400年に生まれたとの事ですが、日本には、旧石器時代を経て縄文・弥生時代があります。そのすばらしい文明を土台にして中国文明が移植されたことを忘れてはいけないと思います。

### 日本史の誕生について

国際化が進む21世紀、世界の様々な文化との接触が多くなり、日本人は自らのルーツを求めその歴史の軌跡を確かめる気運が増えてきました。世界の中の日本、アジアの中の日本、そして日本人とは？

日本列島における歴史の幕開けには文献資料はありません。そのために遺跡や遺物の調査・研究を進める考古学、ヒトの足跡を研究する自然人類学や言語学・民俗学・生態学・作物学など様々な研究分野を総合的にまとめる必要があります。

では、日本人とはどのような民族なのでしょう。今日でいえば「日本語を母国語で話し、伝統的な日本文化を身につけ、自らを日本人だと思っている人」と定義するひとつの民族集団（エスニック・グループ）です。

新人といわれる人類がアフリカ大陸で誕生したことは定説になっています。その新人はその後ヨーロッパ大陸、ユーラシア大陸へ拡散してインド・インドシナへ、そしてシベリア経由でアメリカ大陸や中国へ到達しました。日本列島が現在のように大陸から分離する以前の気候はウルム氷期といい、約7万年前から1万年前まで続く超低温期でした。平均気温は現在より7度ほど低かったとされています。当時の東京が今の札幌、鹿児島が青森だと思えば良いでしょう。そのような厳しい自然環境の中でも日本人の祖先は生存して「旧石器時代」を築いていました。

日本列島に残る遺跡からは多くの石器類が発掘されています。中国大陸からは動物群の移動があり、マンモスはシベリア、サハリンを経て北海道へ南下し、ヘラジカ・ヒグマ・野牛などは本州まで到達しました。他方、大陸北部に分布したナウマンゾウ・オオツノジカ・ニホンジカが朝鮮半島を経由して西日本へ移住しました。当時のハンターたちはそれらの動物を追って東方へと進み、現在の日本列島へ到達したのでした。

重要なポイントは「アジア大陸からの日本に至るルート」として、「シベリア経由で北海道・東北地方へ到るルート」と「朝鮮半島経由で九州・西日本へ到るルート」の2本があったことです。そしてこの2つのルートから移入してきた文化はやがて関東・中部地方で交わりますが、日本列島には人々が移動してきたルートによって2つの文化圏ができました。このことは、その後続く旧石器の分布状態でも見られますし、縄文時代、弥生時代、古墳時代、そして現代に至っても2つの文化圏の相違が多数あります。

そして、最近の研究では、縄文人のDNAが東北地方と関西地方では異なるということが証明され、

同時に弥生時代までの日本列島における文化の発展は東北・関東で高かったことが分かってきました。古墳時代の頃から九州及び関西の文化の進展が高くなっているのは、その時代に大陸交流が盛んになったことが影響しているのだと思います。

現在、「日本的」と考えられている文化の特色の中の多くのものが、中世または近世に起源していますが、それらの特色の基礎には、有史以前に遡る素朴で基本的な文化の伝統も存在しています。これを「基層文化」と呼ぶのですが、日本固有の「カミ（神）信仰」、歌舞伎や能の「民俗芸能」や日本民家の「高床・ハンギングウォールの構造」、そして稲作を基とする食事、日本語の基となった縄文語や倭人語なども「基層文化」の一端といえるでしょう。

### 日本列島は約3万年前に始まった

日本列島の文化遺跡からは10万年以前の石器などが発掘され、人類が存在したことがわかってきました。日本列島の土壌は酸性であるため、その頃の人骨は残っていませんが、3万年以降の後期旧石器時代の人骨は静岡県豊橋市の牛川町、浜北市、三ヶ日町などから発掘されています。また、大分県聖岳洞窟からは14,000年前のものと推定される旧石器と一緒に人骨が出土しました。研究者によると、この人骨は骨が厚く、後頭部の形などが北京郊外周口店の上洞穴出土の上洞人骨に似ているということです。

更にその後、沖縄本島の具志頭村港川の発掘調査で発掘された人骨は約18,000年前のものと判明しました。これらは華南の柳江人（広西壮族自治区柳江県）に類似しているとのこと。おそらく氷期に海面が低下した時期、古モンゴロイドの一部が、中国大陸南部から沖縄や西日本に移住したのだと思われます。また、一方ではこの古モンゴロイドが沿海州方面から北海道・東北地方へ流れ着いたということも証明されています。この2つの古モンゴロイドの集団はそれぞれ異なる文化を担い日本列島に住みついて、その後の縄文時代を築く「原日本人」となったとされています。

### 日本の旧石器文化はいつ頃から始まったのか

1949年に考古学に興味を持った一人の青年によって群馬県桐生市に近い「岩宿」遺跡から発見された一片の石器から日本旧石器文化の探究が始まりました。岩宿遺跡から出土した土器は、24,000年以前のもものと確認され、この発見以来、日本全国では3,000か所以上の旧石器の遺跡が発見されています。「旧石器文化」という呼称は、ヨーロッパでは約1万年以前の時代と文化を指す言葉として定着しており、アフリカ・インド・東南アジア・中国などでも同様に定着されています。

日本列島での最古の遺跡は宮城県北西部の江合川流域に連なる「座散乱木・馬場壇・中峰遺跡」で、約14,000年以前のもんです。発見された石器にはナウマンゾウやオオツノジカの脂肪が付着しており、また動物の角や骨、皮や肉の加工・調理の痕跡が認められています。狩猟生活を営むための貴重な道具として使用されていたのかもしれませんが。これらの石器を使用していたのは、地質学でいう中期更新世（プライストシーン：氷河時代）にあたる時期で「旧人」の生存する時代です。北京原人と同じ原人が日本列島にも存在していたのでしょうか。この時代の海面は現在より100～70mほど低かったので現大陸から容易に日本列島に来ることができたと思われます。

当時、日本列島の自然は現在とは全く違っていました。東北から中部地方の山地は亜寒帯性の針葉樹林に覆われており、一方、関東・東海から西日本地方の低地は冷温帯落葉広葉樹林に覆われていました。長野県北部の野尻湖立ヶ鼻遺跡（40,000～24,000年前）からはナウマンゾウとオオツノジカ、岩手県南部の花泉遺跡（20,000年前）からは野牛やオオツノジカ、ナツメジカなどの獣骨が発見されています。また、花泉遺跡からは中国北部から北上した動物群とシベリアから南下したものが共存していたことも分っており、日本列島への道筋が2本あったことがこれらの事実でも証明されるといえるでしょう。

（次号に続く）